

本日のテーマ

日本人の<sup>れきしいしき</sup>歴史意識はなんだろうか？

キーワード

□自ら（みずから：<sup>のうどう</sup>能動、おのずから：<sup>じゅどう</sup>受動）

□<sup>まるやままさお</sup>丸山真男（つぎつぎに、なりゆく、いきおい／無責任の体系）

日本語の「自ら」という言葉は、どういう言葉ですか？

この言葉は、日本人の考え方の<sup>とくちょう</sup>特徴を表しています。

具体的には、日本人の<sup>しゅたいせい</sup>主体性（agency）の<sup>かんかく</sup>感覚を、表しています。

「自ら」という言葉には、2つの読み方があります。

①「みずから」と、②「おのずから」という2つです。

①「みずから」とは、「自分によって」（by myself）という<sup>いみ</sup>意味です。

②「おのずから」とは、「自分以外の人・ものによって」（naturally）という意味です。

具体的には、「自分以外の人・もの」とは、<sup>うんめい</sup>運命の感覚です。

①は<sup>のうどう</sup>能動（active）、②は<sup>じゅどう</sup>受動（passive）と言います。

日本人は、能動と受動の感覚を同時に持っているのです。

具体的には？

日本人は、「～になりました」という言い方をします。

例えば、「<sup>けっこん</sup>結婚することになりました」という言い方です。

この言い方には、「みずから：能動」と、「おのずから：受動」の2つの意味が含まれます。

①結婚するという自分の<sup>いし</sup>意思と、②結婚するという運命の感覚です。

「～になりました」という言い方には、日本人の主体性の感覚が表れています。

このような、「みずから」と「おのずから」の感覚は、歴史についての考え方についても<sup>どうよう</sup>同様です。

歴史についての考え方を、<sup>れきしいしき</sup>歴史意識と言います。

まるやまさお せいじがくしゃ 丸山真男という政治学者は、日本人の歴史意識について研究しました。

彼によれば、日本人は、「おのずから」の歴史意識を持っています。

つまり、個人の考えや行動を超えた力が、歴史を作るという歴史意識です。

この「個人の考えや行動を超えた力」のことを、彼は「つぎつぎに、なりゆく、いきおい」と言いました。



「おのずから」の歴史認識は、無責任ではありませんか？

ある意味では、その通りです。

「おのずから」の歴史認識では、自分で歴史に参加せず、歴史を運命に任せます。

社会や時代の雰囲気によって、歴史が決まっていくということです。

すると、歴史の責任を取る人がいません。これは、無責任です。

丸山真男は、こうした日本人の歴史意識を「無責任の体系」と呼んで、批判しました。

\*注意点…今回は、日本人論（日本人の特徴）に関する議論を紹介しました。ただ、国民の特徴を捉える

ことは難しく、様々な意見があります。ひとつの意見だけを信じると、ステレオタイプ（Stereotype、偏見）

に繋がります。偏見を持たないためには、まずは、たくさんの知識を持つことが大切です。同時に、知識だけでなく、自分の目で確かめることも大切です。

★日本人の歴史意識とは何でしょうか。また、あなたの歴史意識はどうですか。書きましょう。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----